

園だより



第 13 号

2020年 3月14日

ばんけい幼稚園

羽ばたけ山の子

馬見 雅子

2019 年度が終わろうとしています。年度末には、新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、北海道でも感染拡大が心配される事態となりました。この非常事態の中、卒園のお祝いが限定され、多くの心配や不便さを突きつけられています。何とか皆で知恵を出し合い、協力し、危機を乗り越える手段を見つけていけるよう、そして事態が収束に向かうように、と祈るばかりです。

さて、今年度もたくさんの卒園生が遊びに来てくれました。大学生になって顔を見せに来てくれる子も何人かいて、「幼稚園が懐かしくて」「札幌に来たらここに来たくて」と、周りの景色や園舎内を感慨深く見ていました。中には「幼稚園の体験がきっかけで、今、微生物を研究しています」という子もいました。スキーをしに、またアルバイトでスキー場にくる子も多くいます。先日、学校の代休で遊びに来た 4 名の小学 5 年生の子たちは、赤組のお世話をしてくれる頼りがいのあるお兄さんお姉さんとなり、帰りには、雪まみれになって大はしゃぎ。“さすが、ばんけい育ちの山の子！”と嬉しくなりました。

かなり冷え込んだ 2 月の下旬、雪に埋もれて遊んでいる緑組の女の子二人に「寒くない？」と声をかけると、「ぜんぜん！だってあったかい格好すれば大丈夫だもん！」「さむくな〜い！だって山の子だもん！」「ね〜！！」私は「そっか。そうだね！」と、感心しきり。寒さに対処する具体的方法と心の強さを、先生から、経験から、しっかりと学んでいることがわかりました。同時に暖かい服装を準備してくださった保護者の皆さんへの感謝の思いを抱きました。

子どもたちが「山の子だもん！」という時には、“負けない強さ、たくましさ”について自分を励ますときに使っていることが多いように思います。教師が願うばんけい育ちの山の子は、それに加えて、自然と関わる素晴らしさ・楽しさを知り、大人になってもその気持ちを持っていて欲しい、自分らしくいて欲しい、人との関わりを楽しんで欲しい、困難を乗り越え、様々な状況に対応できる知恵や柔軟さや優しさを持っていて欲しいと思っています。欲張りのようですが！卒園児の姿を見ると、欲張りでもないのでは？と思うのです。子どもたちの可能性は大人の予想を軽く飛び越えています。

「羽ばたけ！山の子！」卒園する青組の子どもたち、進級する緑・赤組の子どもたち、全ての子どもたちに心からのエールを送ります。